

新城市

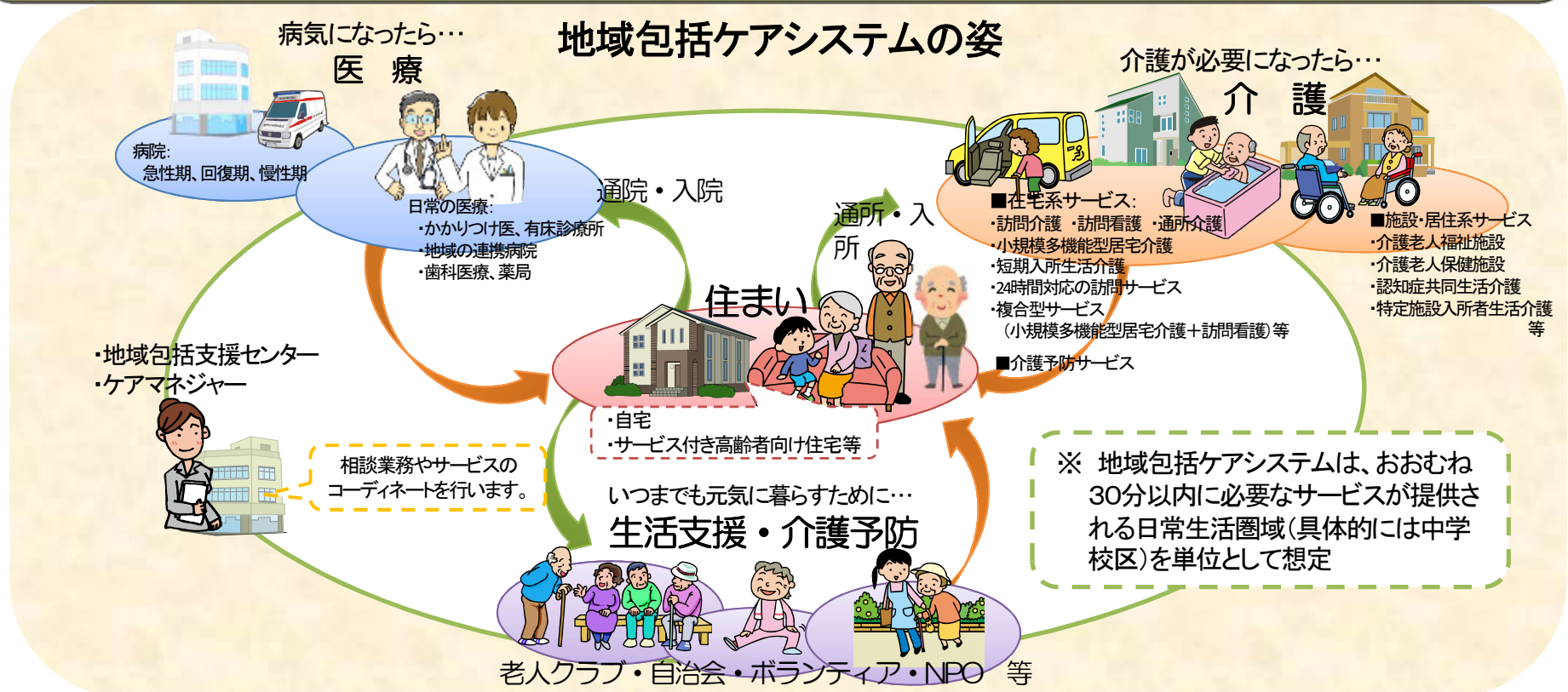


平成27年度（第2回）  
東三河北部圏域保健医療福祉推進会議  
地域包括ケアモデル事業について

新城市 健康医療部 介護保険課  
地域包括ケア推進室

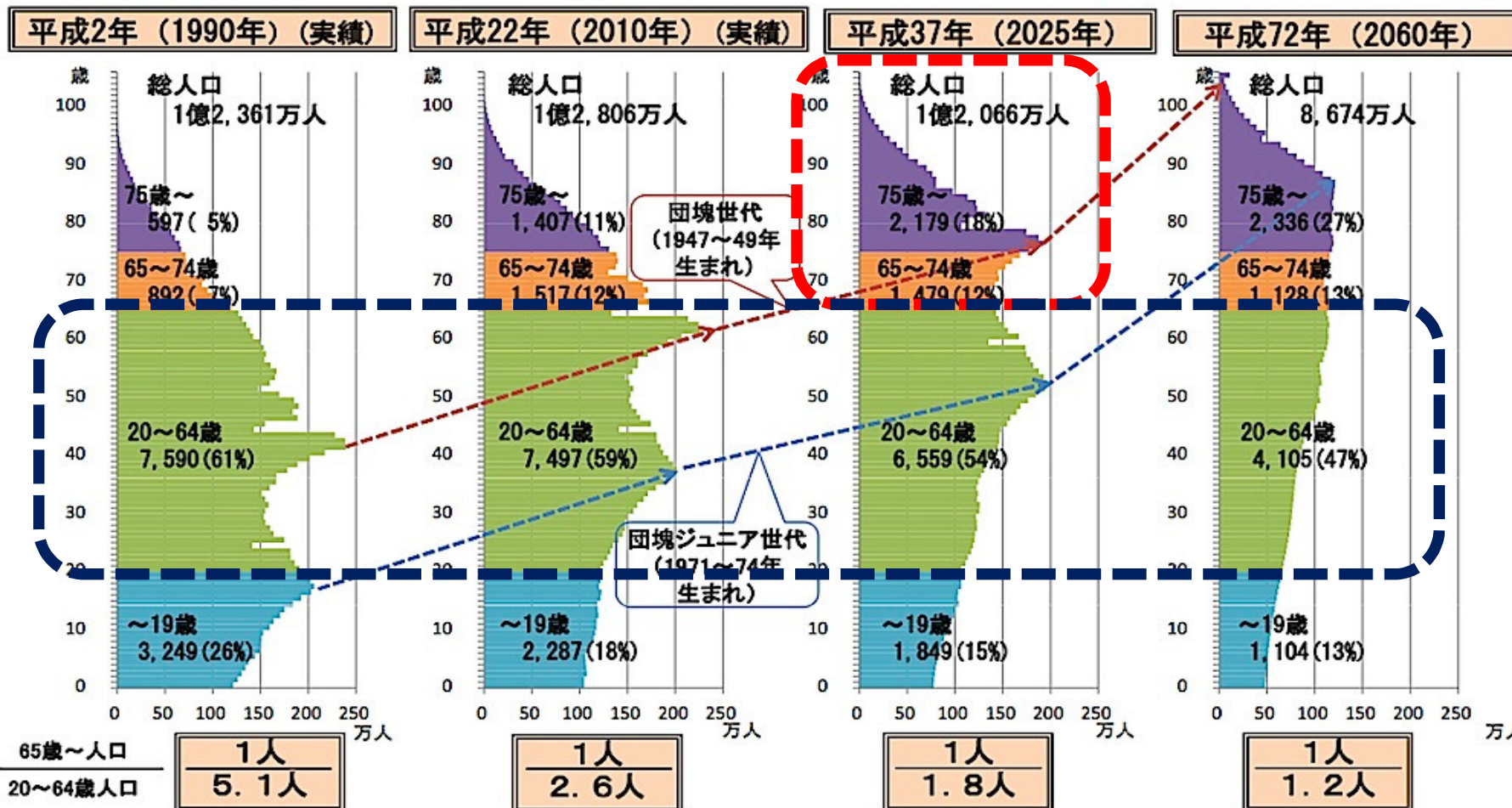
# 地域包括ケアシステムの構築について

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現。**
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差。**
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要。**



# ◎高齢者数がピーク＝超高齢社会の到来

後期高齢者数：2010年1407万人⇒2025年2179万人(1.5倍)



(出所) 総務省「国勢調査」及び「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計):出生中位・死亡中位推計」(各年10月1日現在人口)

労働生産年齢者の減少＝お世話する人の減少

## 超高齢社会を生き抜くために・・・

- 少子化⇒労働生産年齢者の減少（お世話する人の減少）
- 高齢者数ピーク⇒多死社会（看取りの場所の確保が必要）
- 人口・世帯構成の推移⇒高齢者世帯の増加（ひとり暮らし）
- 高齢者の増加と同じペースで医療・介護職を増やすのは不可能  
⇒今までと同じ医療・介護サービスは期待できない。
- 高齢者の希望・思い⇒約7割の高齢者が  
要介護状態でも自宅での生活を望んでいる。

※国の対策は

「病院完結型医療」から「地域完結型医療」へ

多職種や地域住民が連携して、地域で支える仕組みが必要

⇒ その仕組み = 「**地域包括ケアシステム**」

# 新都市の地域包括ケアシステム 構築に向けての取組み

# ◎愛知県地域包括ケアモデル事業

○実施期間：平成26年度から平成28年度〔3年間〕

- **地域包括ケアシステムの構築**は、医療機関や介護事業所、地域包括支援センターなど、**地域の社会資源の状況はさまざま**であるため、**地域ごとにその地域の状況に応じたシステムを構築**していく必要がある。（地域包括ケアシステムは、1種類ではなくさまざまな形がある。）



- 愛知県では、基本的な形として4つのモデルを提示し、そのモデル実施市町村に事業を委託。
- 県内の各地域（市町村）においては、このモデルの取組みを参考にしながら自分たちの地域の状況にあった地域包括ケアシステムをつくり上げていくようにしていく。
- 報告会等の開催。

# ◎地域包括ケアシステムの4つのモデル

## ①地区医師会モデル(都市部を想定) **安城市・豊川市・田原市**

在宅医療提供医師がある程度いる地域で、地区医師会と市町村が中心となって、診療所のグループ化などにより在宅医療提供体制を整えるとともに、医療・介護・予防・生活支援を担う関係職種が連携するシステム。

## ②訪問看護ステーションモデル(山間部を想定) **新城市**

在宅医療提供医師が限られた地域で、医療・介護の双方に通じた訪問看護ステーションが中心となって高齢者の在宅療養を支えるとともに、医療・介護・予防・生活支援を担う関係職種が連携するシステム。

## ③医療・介護等一体提供モデル(法人グループを想定) **豊明市**

医療・介護に係る複数の事業所を持つ法人(又は法人グループ)が一体的にサービスを提供しながら、市町村、地区医師会と協議の場を持ち、地域包括ケアの方向性を共有しながら、関係職種が連携するシステム。

## ④認知症対応モデル **半田市**

地域包括ケアシステムの枠組みの中で安心して暮らすことができるよう、関係者の認知症対応力の向上を図るなど、認知症対応に重点を置いたシステム。

# 各市町村の状況について

## ●高齡化の進展状況には地域差がある。

今後急速に高齡化が進むと見込まれるのは、首都圏をはじめとする「都市部」である。

人口は横ばいで**75歳以上人口が急増**する。

※高齡者の住まいの問題等、従来と異なる問題が顕在化すると見込まれる。

## ●自分の市町村の現状をしっかりと把握する。

- ・人口、高齡化等の状況
- ・社会資源等の状況



# 地域包括ケアモデル事業の取組み から見えてきたもの（2年目）

# 新都市の地域包括ケアシステム構築について

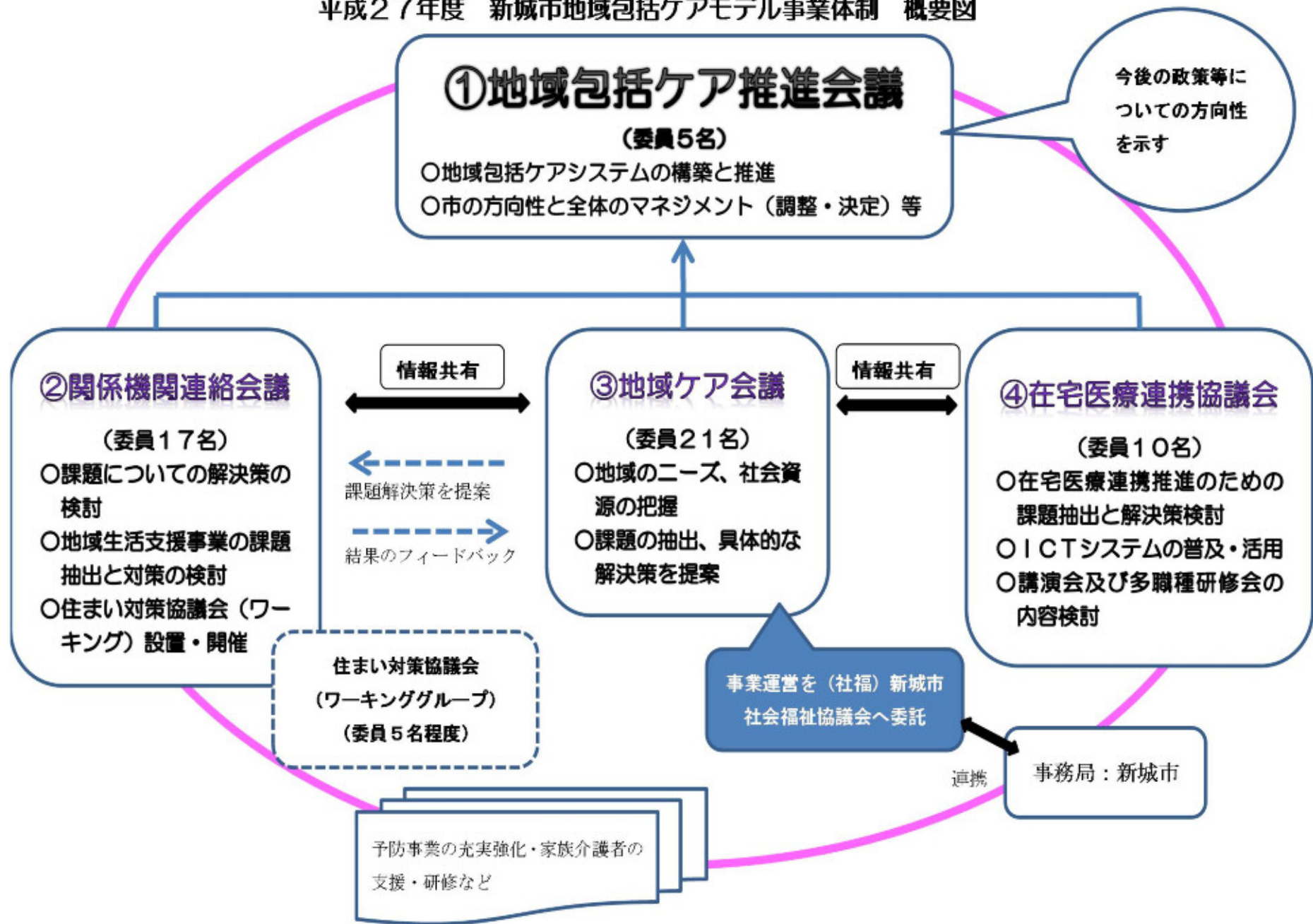
## 多職種による会議で検討し実施

- 平成26年度の取組み
  - 医療と介護に関わる多職種の連携体制づくり
  - 新都市の社会資源の把握・分析
  - 在宅医療・地域包括ケアシステムの普及啓発  
※訪問看護の活動紹介（PR）
- 平成27年度の取組み
  - 予防・健康づくりの取組み
  - 生活支援サービスの検討・実施
  - 認知症対策についての取組み検討
  - 住まい対策協議会の設置

# 1年目の取組みから見えてきたもの①

- 顔の見える関係の重要性。（話し合える場）
  - ・多職種による会議・研修会等の開催
    - ・3師会との関係づくり（理解）ができた。
    - ・医療職、介護職との連携ができてきている。
    - ・地域ケア会議での事例検討からの課題抽出。
- 地域の社会資源の把握・分析の必要性。
  - ・限られた資源を効率よく活用する。
    - ・「医療介護ガイドマップ」の作成、配布
    - ・「私たちの地域と社会資源2015新城市」の作成

平成27年度 新城市地域包括ケアモデル事業体制 概要図



# ○多職種研修会の開催《顔の見える関係づくりの推進》

## ❖平成26年度 4回開催

- 第1回 平成26年12月4日（木）19:30～ 新城文化会館301室  
グループワーク（11グループ）参加者87名
- 第2回 平成27年3月18日（水）19:00～ 新城文化会館小ホール  
講演「終末期の緩和ケアを地域に広めるために」参加者147名  
講師：豊橋医療センター緩和ケア部長 佐藤健医師
- 第3回 平成27年3月22日（日）13:30～ 新城文化会館大会議室  
講演「在宅医療における多職種協働の意義」参加者77名  
講師：国立長寿医療研究センター 呼吸機能診療科 千田一嘉医師
- 第4回 平成27年3月28日（土）14:00～ 新城文化会館大会議室  
講演「認知症の在宅医療について」参加者107名  
講師：国立長寿医療研究センター 精神科 福田耕嗣医師

## ❖平成27年度 3回シリーズで開催

昨年度の多職種研修会において、参加者から聞かれた感想や意見から見えた問題点をしっかりと捉え、今年度の研修に活かし、更に多職種が連携することの有効性を推進する。

目的：実際の事例検討（グループワーク）を通じて、他の職種への理解を深め、自らの役割を認識し、連携による解決策を検討する。

開催：第1回平成27年12月5日（土）訪問看護についての事例

第2回平成28年1月28日（木）口腔ケアについて(保健所共同)

第3回平成28年3月12日（土）認知症についての事例

## 地域の社会資源の把握・分析

※限られた資源を効率よく活用する。

①「わたしたちの地域と社会資源2015新城市」作成  
・地域自治区、中学校区等で分けた社会資源一覧

②新城市「医療介護施設ガイドマップ」の活用  
・H26年度作成、関係機関等への配布

③住民ニーズの把握  
・地域福祉計画、第6期高齢者保険福祉計画等、庁内で実施したさまざまな住民のニーズ調査を情報収集し、状況把握・分析。

※市政モニターアンケート（100人）の実施【2回/年】

第1回 平成27年10月 テーマ 地域包括ケアシステムについて

# 医療介護ガイドマップ



**お問い合わせ**

新城市健康医療部介護保健課  
TEL 0536-23-7484

新城市地域包括支援センター  
TEL 0536-23-6410

新城市 介護支援センター  
TEL 0536-23-7484

電話番号	事業所名	電話番号	事業所名
0536-32-1905	くまみ荘訪問入浴事業所	0536-35-0694	くまみ荘
0536-35-0694	ショートステイ(福祉)	0536-32-7011	短期入所生活介護事業所
0536-32-6888	虹の短期入所生活介護事業所	0536-38-1481	ショートステイ(医療)
0536-35-6100	医療法人 静寂堂医院	0536-34-5051	訪問看護
0536-35-5100	ショートステイ(老健)	0536-32-2416	訪問介護
0536-34-5051	介護老人保健施設 鳳来ケアセンター	0536-32-1515	訪問看護ステーション
0536-32-1905	訪問看護	0536-37-2133	訪問看護ステーション
0536-38-1481	訪問看護		

電話番号	事業所名	電話番号	事業所名
0536-35-0694	くまみ荘訪問入浴事業所	0536-35-0022	訪問リハビリ
0536-32-7011	短期入所生活介護事業所	0536-35-0694	訪問リハビリ
0536-38-1481	虹の短期入所生活介護事業所	0536-35-0694	訪問リハビリ
0536-35-6100	医療法人 静寂堂医院	0536-34-5051	訪問リハビリ
0536-34-5051	介護老人保健施設 鳳来ケアセンター	0536-35-0022	訪問リハビリ
0536-32-2416	訪問看護ステーション	0536-32-1515	訪問リハビリ
0536-32-1515	訪問看護ステーション	0536-35-0811	訪問リハビリ
0536-37-2133	訪問看護ステーション		

電話番号	事業所名	電話番号	事業所名
0536-35-6100	グループホーム 好日庵	0536-32-8200	グループホーム 長崎の家
0536-32-8200	グループホーム 長崎の家	0536-34-5060	グループホーム 鳳来の家
0536-34-5060	グループホーム 鳳来の家	0536-37-5200	グループホーム 新城作手の家

## 1年目の取組みから見えてきたもの②

### ○地道な普及活動

- **市民1人1人の意識**（自らの参加）
  - 介護予防・健康づくり
  - 地域の支え手に
- **地域みんなで支えあうしくみの推進**
  - 地域から動き出すように

### ○ICTシステムの活用

- H26.10 東三河ほいっぴネットワーク新城市開設
- まずは**訪問看護利用者情報の共有ネットワーク構築**
- 本市のような広範な地域での活動においては効果がある。



# 在宅医療・地域包括ケアシステムの普及啓発

## ①市民向け講演会の開催 新城文化会館小ホール

### ❁平成26年度 2回開催

第1回 平成26年9月27日(土) 14:00～

「**超高齢社会を生き抜くために～2025年問題～**」

講師：国立長寿医療研究センター 在宅連携医療部長 三浦久幸氏

//

//

研究員 後藤友子氏

第2回 平成27年3月18日(水) 19:00～

「**終末期の緩和ケアを地域に広めるために**」

講師：豊橋医療センター緩和ケア部長 佐藤健医師

### ❁平成27年度 2回開催

第1回 平成27年9月26日(土) 14:00～

「**あなたはどんな生き方を望みますか**」

講師：日本在宅ホスピス協会会長 小笠原内科院長 小笠原文雄先生

第2回 平成28年3月5日(土) 13:30～

「**認知症に関する講演会**」(家族介護者支援・地域の支え合い)

講師：公園通りクリニック院長 森田浩之先生

## ◆第1回 9月26日(土)14:00～ 新城文化会館小ホール

### 「あなたはどんな生き方を望みますか」

講師：日本在宅ホスピス協会会長 小笠原内科院長 小笠原文雄先生

- ・参加者：214名 (市民参加の増加)

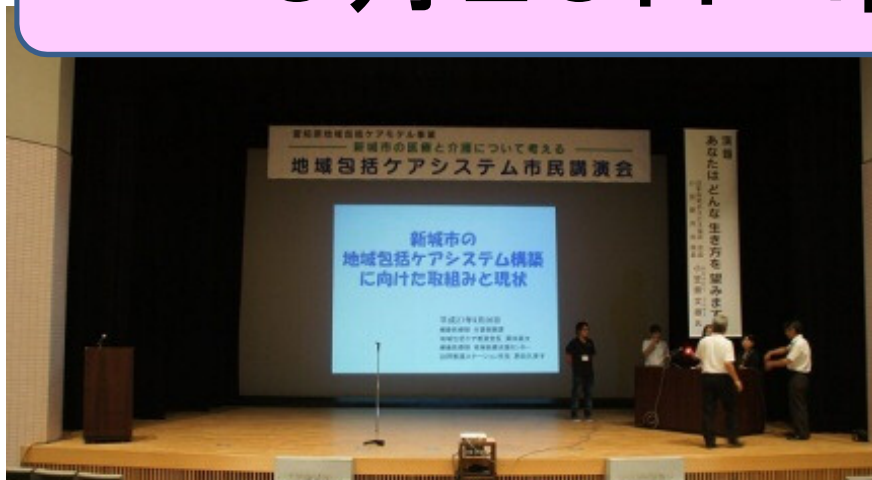
### ○ホール入口でパネル展示

- ・訪問看護、在宅医療、かかりつけ医、総合相談窓口、地域包括支援センター、地域包括ケアシステム等

### ※アンケート結果 (回収率56%)

- ・年代別参加人数 最も多い50歳代(34%)次に60歳代(27%)10歳代1名20・30歳代の参加が少ないため、働く世代への参加促進を検討
- ・性別参加人数 女性70名、男性45名、今回は医療関係/行政関係者の男性参加
- ・参加のきっかけ チラシを見て参加した人が82名と圧倒的に多い
- ・講演に対して 講演全体・内容・役立ちの全てで大変良かった回答が60%以上
- ・感想・意見 回答者の多くが、在宅医療・在宅介護への理解、医療・介護の体制整備への重要性について感想を述べている。多くの課題があると考えている意見が医療、介護関係者の回答で多かった。医療・介護に携わるすべての者が今の現状をしっかりと把握し、市として、どういうシステムを地域に作りあげていくのかを示していかないと、市民の不安は払拭できない。
- ・地域住民などからは、明るく元気に過ごしていくことの大切さや笑顔で人生を送りたいという「気づき」が多かった。

# 9月26日 市民向け講演会



# 在宅医療・地域包括ケアシステムの普及啓発

## ②地区へ出向いての住民説明会の開催

- ・保健師と協力し、介護予防としての健康体操
- ・認知症予防運動等の実施。（コグニサイズ）
- ・地域住民の意識（元気で地域の支援者となる）
- ・地域住民との情報交換（その地域の現状・課題の把握）

※地域へ出向き、その地域の社会資源を把握し、将来推計を含め、理解の上各地域で必要としているもの、不足している生活支援等について検討する。

## 「健康づくり教室・相談会」の開催（H28.1・2月）

- ❖元気で不安のない暮らしを続けるため、自らの健康づくりに励み、認知症予防など地域みんな健康づくりをしましょう。
- ❖地域に出向いて開催しますので、お近くの会場へご参加ください。

開催：21か所（新城8、鳳来10、作手3）

内容：予防・健康づくりをはじめましょう。

健康マイレージを活用しよう。

認知症予防運動「コグニサイズ」をやってみよう。

心配ごと相談会（気になっていることなど気軽に相談してみよう）

# 在宅医療・地域包括ケアシステムの普及啓発

## ③機関紙等への掲載による在宅医療・訪問看護及び地域包括ケアの普及啓発

### ○広報ほのかへシリーズで掲載

- ・「訪問看護ステーション便り」訪問看護活動紹介等  
訪問看護ステーション 【H26. 11月号～】
- ・「いつまでも自分らしく暮らしていくために」  
地域包括ケア推進室 【H27. 9月号～】

### ○チラシ等による普及啓発（全戸配布）

### ○各種団体会議等での説明、案内通知

- ・民生委員・児童委員協議会、介護保険事業者会議、老人クラブ
- ・ボランティア団体、東三河北部相談支援専門員連絡会等
- ・中学生の訪問看護学習会

# 在宅医療・地域包括ケアシステムの普及啓発

## ④ ICTシステム(東三河ほいっぴネットワーク) デモ体験研修会

- ・ 8回実施：4日間 2回/日(7/29、30、8/5、6)
- ・ 参加者：65名
- ・ モデル事業4会議の委員、委員が属する団体(組織)の職員

### ○訪問看護利用者情報の共有ネットワーク構築

- ・ ノートPCを活用し、患者情報をシステムに入力し活用

※本市のような広範な地域での活動においては効果がある。

### ※現在の登録状況

登録施設            25施設（医療機関11、介護事業所8、その他6）  
登録メンバー    72人

# ICTシステムデモ体験研修会



まちなみ  
情報センター  
パソコン研修室



# 1年目の取組みから見えてきたもの③

## ○市担当事務局の体制強化

- 様々な関係者との連携の必要性など、庁内の関係する各部課等の協力体制（連携）が必要である。
- 継続して取むことになり、職員の質（専門性等）が求められる。

### ◆組織機構見直し

担当部局

市民福祉部  
長寿課

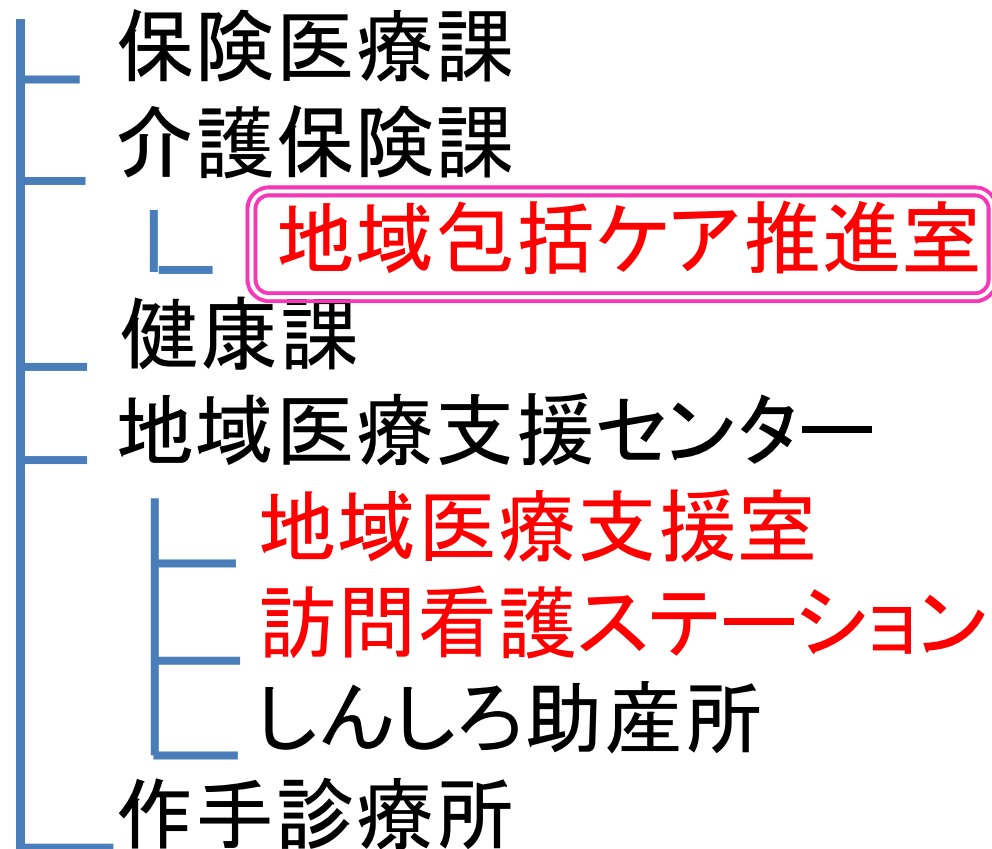


健康医療部  
介護保険課  
地域包括ケア推進室



# 平成27年度連携体制

## ○健康医療部



新城市医師会 在宅医療サポートセンター

# 鳳来保健センター内



地域包括ケア推進室  
在宅医療サポートセンター

シルバー人材センター

## 1年目の取組みから見えてきたもの④

### ○訪問看護ステーション

- **訪問看護の普及啓発**の必要性。
- 公設であるため、市の方針に沿った取組みが行えた。
- 山間地における事業展開は経営上の採算が取りづらいことから、民間参入は難しい。
- 訪問看護職員の確保（経験必要）は今後難しくなるため、将来を見据えた採用計画が必要である。

※資源は限られているため、効率的な運用が求められる。

（人的・財政的）

（検討・工夫・改善）

※需要と供給のバランスを考えながら実施していく。

# 平成27年度の新たな取組状況

## ○住まいの取組状況及び検討状況

### ①「住まい対策協議会」の設置・開催

- 低所得の要支援・要介護高齢者向け住まいの確保の検討。
- 課題の抽出、必要な取組の検討。
- 開催：年4回程度
- 参加者：関係機関連絡協議会委員 5名

#### ワーキンググループ設置

- 都市計画課長、自治推進課参事、社会福祉協議会、民生委員、ボランティア団体代表の5名

# 支え合う地域みんなの役割

## ●本人

自ら健康づくりに励み、かかりつけ医を持ち、健診を受ける。  
地域の見守りなどの互助の支え手となる。

## ●介護者

自らの心身の健康に気を付け、**介護者同士相互に支え合う。**

## ●地域住民

NPO、老人クラブ、自治会、民生委員、商店など、**すべての住民が相互に支え合う。**

## ●自治体

市町村は、地域包括ケアシステム構築の**中心的な役割**を担う。

## ●事業者等

医療・介護関係者は、**情報共有・連携しながら、利用者に適切なサービスを提供する。**

# 新都市の現状について

## 新都市の課題（特徴）

○面積が広大 ⇒ 広範囲：地域格差（移動時間により制限）

- ・ 訪問看護ステーション1日平均移動距離 約40km  
（最遠方利用者までの距離：往復52km）
- ・ 医療・介護サービスの提供（民間参入が難しい）

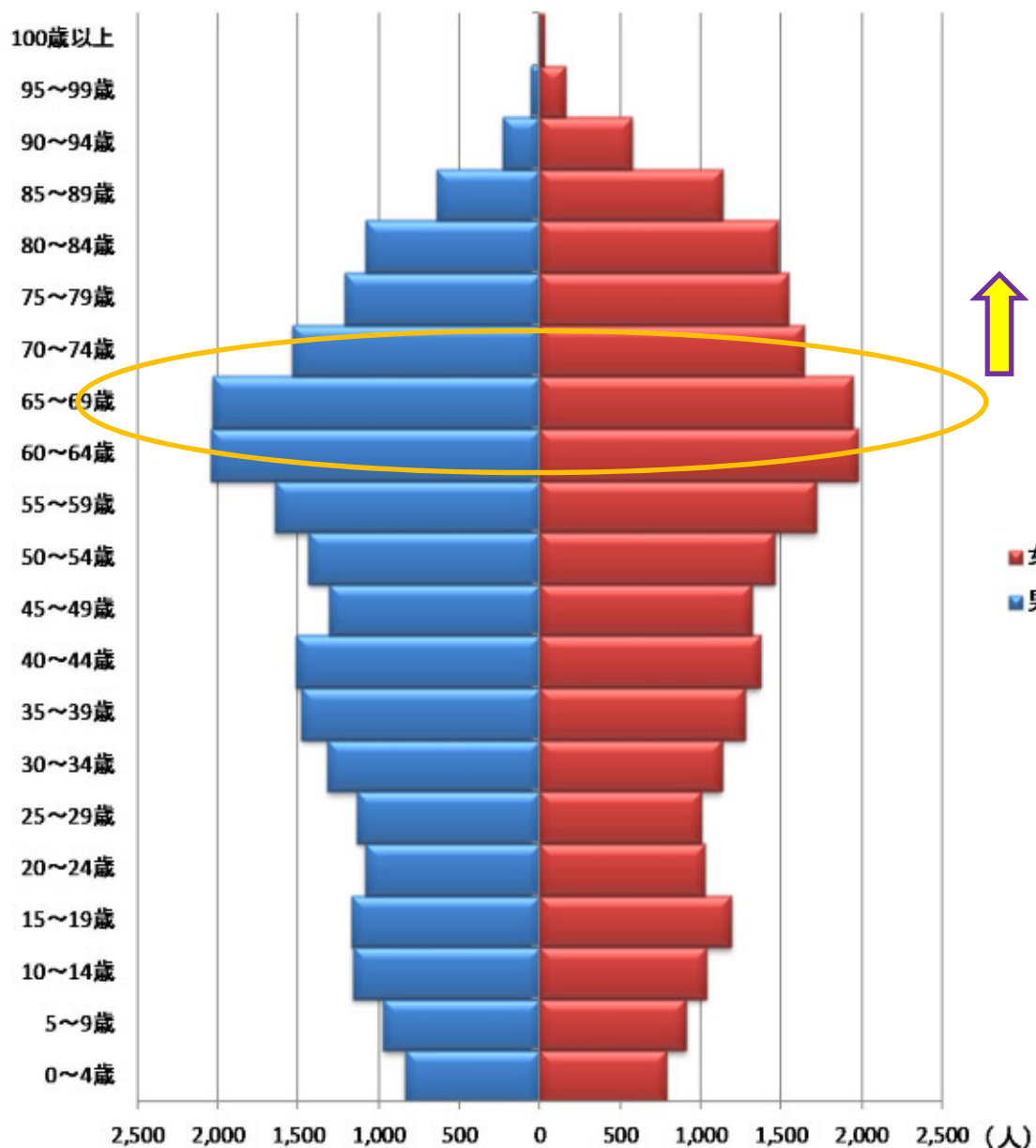
○市内3地区は地域性も異なり、抱えている課題が違う。

- ・ 新城地区、鳳来地区、作手地区
- ・ 人口や高齢化率の地域間格差が広がっている。

○訪問診療を行う医療機関が少ない。

※地域ごとの異なる課題に対応するため、その地域の住民主体の助け合い・支え合いが必要⇒10の地域自治区での検討

## H26.10.1新城市全域年齢別人口



### 新城全域の特徴

・第1次ベビーブーム（団塊の世代）の人口が多い。全国と比べ高齢人口の割合が高く、生産年齢人口が低い。少子高齢化が進行しており、第2次ベビーブーム世代の数が全国と比較すると少ないのが特徴。

	新城全域		全国
	人数	年齢構造係数	
0~15歳	5697	11.7%	12.8%
16歳~64歳	27564	56.8%	61.2%
65歳以上	15269	31.5%	26.0%
合計	48530	100%	100%

※年齢構造係数…総人口に占める年齢3区分別

人口の割合

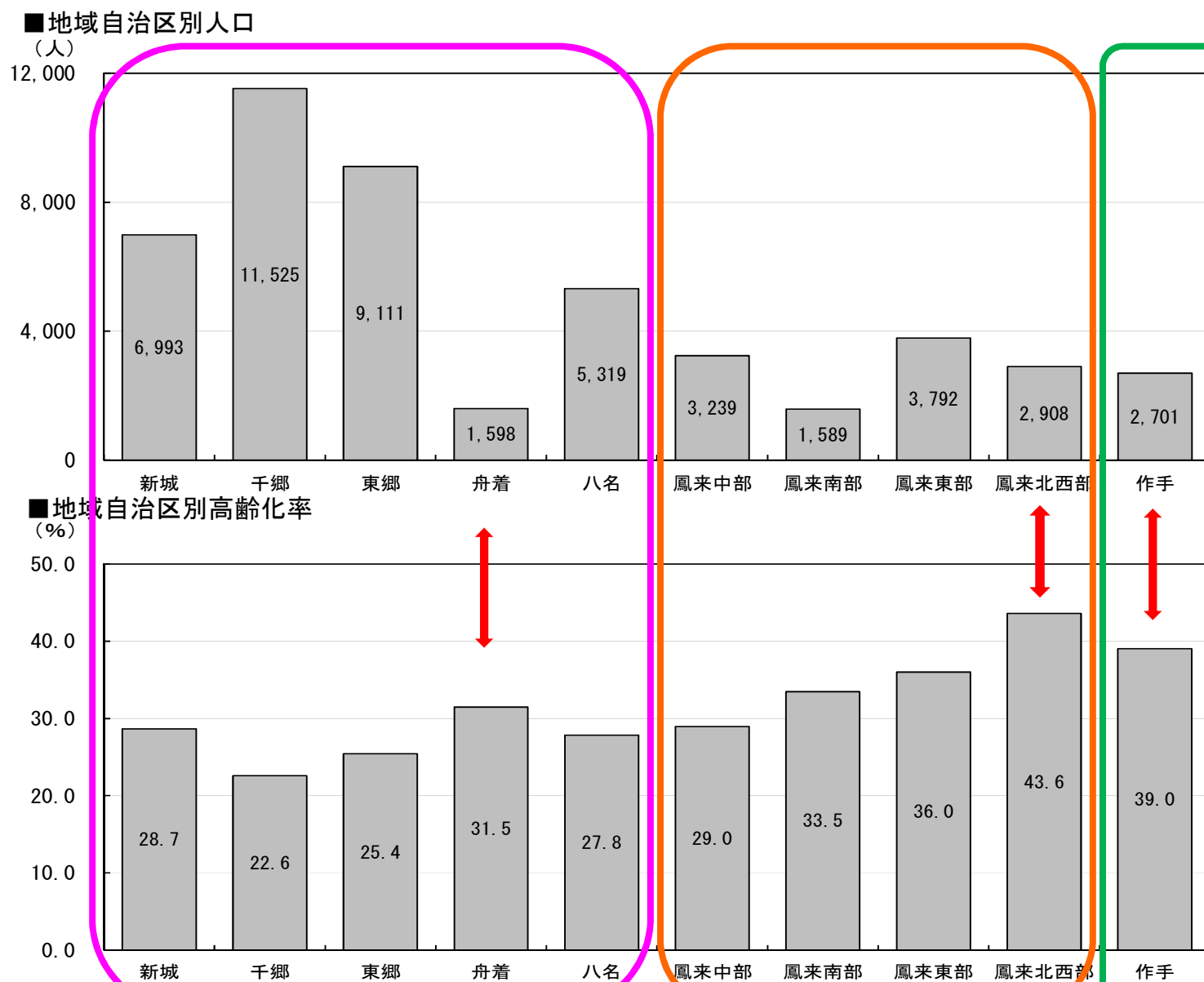
年少人口…0~15歳

生産年齢人口…16~64歳

老年人口…65歳以上

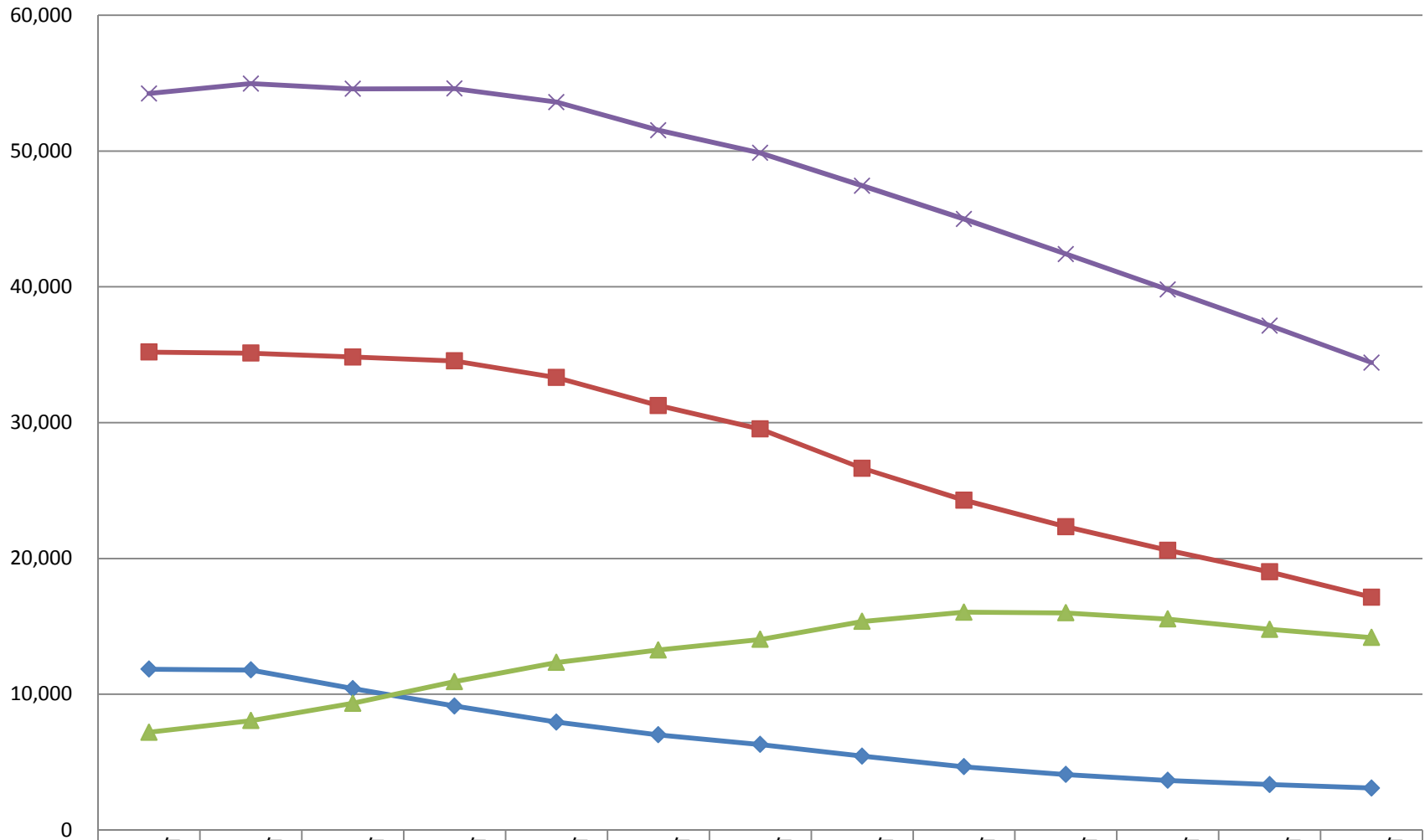


# 地域自治区別人口と高齢化率



資料・住民基本台帳(平成26年4月1日)

# 新城市年齡別人口推移



	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
年少人口計	11,846	11,785	10,415	9,129	7,946	7,013	6,300	5,438	4,658	4,090	3,655	3,349	3,093
生産年齢人口計	35,195	35,119	34,835	34,546	33,320	31,264	29,531	26,641	24,293	22,336	20,599	19,013	17,145
老年人口計	7,198	8,061	9,328	10,927	12,337	13,255	14,033	15,364	16,043	15,990	15,539	14,780	14,177
総人口計	54,239	54,965	54,578	54,602	53,603	51,532	49,864	47,443	44,994	42,416	39,793	37,142	34,415

◆ 年少人口計   
 ■ 生産年齢人口計   
 ▲ 老年人口計   
 × 総人口計

# 新城市がこれから取り組むこと

○地域みんなで助け合う仕組みの推進。

※多職種連携体制づくりの強化

※地域住民の理解と協力

○予防・健康づくり〔元気で不安のない暮らし〕

※市民1人1人の意識

## ☆市民への周知（PR）

- ・普及啓発・・・○講演会・説明会の開催  
○普及チラシの配布
- ・情報発信・・・○広報ほのかへの掲載  
○市HPへの掲載
- ・出前講座・・・○地域へ出向いて実施

# 新城市がこれから取り組むこと

## ○生活支援サービスの検討

※地域で困っていること、必要としていることの把握  
(洗い出し)

## ○認知症対策の取組み

※出前講座・予防体操など地域へ出向き実施

※認知症サポーター養成講座の実施

## ○住まい対策

※協議会により検討

## ☆市の社会資源を把握・分析

・課題の抽出・解決策の検討

・地域が必要としているものの洗い出し

☆地域へ出向いての説明会、健康体操・認知症予防講習会等の開催 (健康づくり)

## 【問い合わせ先】

〒441-1634

新城市長篠字仲野16番地11（鳳来保健センター内）

新城市健康医療部 介護保険課  
地域包括ケア推進室

メールアドレス: [chiiki-houkatsu@city.shinshiro.lg.jp](mailto:chiiki-houkatsu@city.shinshiro.lg.jp)

電話：0536-32-0526

FAX：0536-32-2403



ご清聴ありがとうございました。